



全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会
Benzodiazepine YAKUGAI Association

**国立循環器病研究センターの論文捏造の
不祥事事件に対する抗議書**

厚生労働省医政局長 迫井 正深 様
同 研究開発振興課長笠松 淳也 様
政策統括官（総合政策担当）（政策統括室長併任）伊原 和人 様
政策立案総括審議官（統計、総合政策、政策評価担当）村山 誠 様
C C 報道各社（朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、週刊文春、東洋経済社他）

令和3年1月31日

全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会

情報提供人 代表 多田 雅史



Registered trademark (R)
「患者・行政・医療者の三者の協力」
を表しています

代 表

多田 雅史

全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会

Benzodiazepine YAKUGAI Association : BYA

HP <https://www.benzodiazepine-yakugai-association.com/>

〒461-0001 愛知県名古屋市長区泉1-1-35

ハイエスト久屋5F 柴田・羽賀法律事務所

事務所TEL : 052-953-6011、多田携帯 : 080-1566-3428

E-mail : crosstada2@vesta.ocn.ne.jp

BYA-HP: <https://www.benzodiazepine-yakugai-association.com/>

* 本件へのお問合せは上記の携帯電話へお願いします。

前略

当会は、2017年11月に設立され、400名余の会員がいるベンゾジアゼピン系薬物（向精神薬）の副作用による被害者の会です。当会は、国立研究開発法人国立循環器病研究センター（以下「国循」という）の医療事故の隠蔽体質及び贈収賄体質について、令和3年1月24日、「国立循環器病研究センターの贈収賄体質の改善に関する抗議書」において、御省に抗議した。今回、再び、大阪大学に所属した国循の研究者による「新たに2論文でもねつ造・改ざん 臨床研究中止に」（NHK）（資料1）と報道されたことに対して、重ねて、抗議し、国循の悪しき体質の改善について、国循の解体を含めた検討をすべきであることを要求する。

第1 趣旨

1. 国循は、国循官製談合事件の刑事裁判の有罪確定、医療事故の隠蔽、医療過誤事故の確定判決の司法判断の無視、日本医療機能評価機構による病院機能評価認証の失効、国循OBによる三重大病院元教授の第三者供賄事件、そして、今回の



論文データの捏造事件など、その体質は、「患者や病院に損害を与えても、自らの手柄となる論文データをねつ造したい」というものであり、臨床試験の実験台となった患者は「人体実験」そのものである。すでに度重なる国循の不祥事・不法行為に対して、御省は、国民の医療安全を守る立場から、厳しく、国循の解体を含めて、行政指導を徹底すべきである。

2. 加えて、今回のデータねつ造事件においても、国循の代表者の小川久雄理事長は、記者会見の場で深々と頭を下げて謝罪し（資料1）、関係者の処分に言及しながら、自らは、一切、不祥事の責任を取らずに、令和3年4月から母校の熊本大学の学長に栄転就任しようとしており、言語道断である。小川久雄理事長は、国循の最高責任者として、一連の度重なる国循の不祥事・不法行為の責任を取らせるべきである。

第2 理由

1. 趣旨の1について

- (1) 今さら、趣旨の1の理由を述べるまでもなく、報道された事実のとおりであり、資料1、2、3及びこれ以前の論文の捏造の報道の資料4のとおりであり、「人体実験にさらされた被害者患者」の苦しさを思えば、国循が、相当の処分を受けるのは当然である。
- (2) 論文データをねつ造して、「患者を利用した人体実験」により、研究者の国循の室長を務めた野尻崇医師は、自らの成果を得ようと、手段を択ばない姿勢は研究者として「完全に失格」である。また、以前から国循は、御省の独立行政法人の評価審議会において「法令遵守コンプライアンスの欠如」が指摘されており、今回も、有効な行政指導がなされないまま、再び、不祥事を発生させたことは、御省の不作為も深く関与している。

2. 趣旨の2について

- (1) 国循は、これまで多数の不祥事を生じさせながら、国循の最高責任者の小川久雄理事長は、一切、責任を取ってこなかった。同理事長は、不祥事の責任を担当者に押し付け（今回の捏造事件では国循の寒川賢治元国循研究所長）、いわば、「トカゲのしっぽ切り」で生き延びてきた。そして、今般、小川久雄理事長は、国循から熊本大学の学長に栄転しようとしている。国民としてかかる不祥事の責任を最高責任者の理事長が、一切、取らないことは許し難い。よって、同理事長に熊本大学の学長への就任を辞退させたうえで、国循を懲戒解雇すべきである。
- (2) また、今回の論文ねつ造の記者会見の場に同席している国循の企画戦略局長の稲川武宣氏は、厚生労働省関東信越厚生局指導総括管理官及び同健康局生活衛生課長から国循へ異動しており、いわば、「厚労省からの天下り組」である。そして、稲川局長は、厚労省時代の役割を忘れて、「国循の不祥事隠し」に奔走してい



る。このような、国循の指導に役立たない、つまり、無意味な天下りを行うべきではなく、重ねて、抗議する（資料5）。

添付資料

1. 新たに2論文でもねつ造・改ざん 臨床研究中止に（NHK）
2. 阪大・国循の元医師、がん論文不正新たに2本…実験グラフに捏造や改ざん（読売新聞）
3. 論文不正、先進医療の臨床研究を中止 国循・阪大が発表（朝日新聞）
4. 「医師が論文5本で捏造や改ざん」 阪大と国循が発表＜2020年8月＞（朝日新聞）
5. 国立循環器病研究センター病院長候補者選考委員会委員名簿（国循）

草々